

MISA SHIN GALLERY

3-9-11-1F, Minamiazabu, Minato-ku, Tokyo 106-0047 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

プレスリリース
2023年10月

彦坂尚嘉

PWP: Practice by Wood Painting

2023年10月14日(土) - 11月25日(土)

開廊時間：火-土(日月祝休) 12:00-19:00

オープニングレセプション：2023年10月14日(土) 16:00-19:00

トーク：11月4日(土) 16:00-17:00 富井玲子(美術史家) 事前予約不要



Hikosaka Naoyoshi, 3 Woodbox Art, 1992, acrylic on wood, 72.5 x 73.0 x 23.8 cm

MISA SHIN GALLERYは、10月14日(土)から11月25日(土)まで、彦坂尚嘉による個展「PWP: Practice by Wood Painting」を開催いたします。

全裸で自室の畳の床と縁側にラテックスを撒き、一連の行為を写真に記録したパフォーマンス、「フロア・イベント」(1970年)で知られる彦坂尚嘉は、美術表現の制度そのものを根元から問い直し70年代以降の日本のコンセプチュアリズムを主導したアーティストです。

1969年、堀浩哉らとともに結成した「美術家共闘会議」(美共闘)の主要メンバーとして、美術の制度批判を追求した彦坂は、1970年から75年まで、「フロア・イベント」とそのバリエーションを展開した後、美共闘の活動の終焉とともに、「プラクティス」(直訳すると「実践」)のコンセプトの下に新たな探求に向かいます。彦坂のプラクティス論は、アリストテレスに参照した

MISA SHIN GALLERY

3-9-11-1F, Minamiazabu, Minato-ku, Tokyo 106-0047 JAPAN

tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335

www.misashin.com info@misashin.com

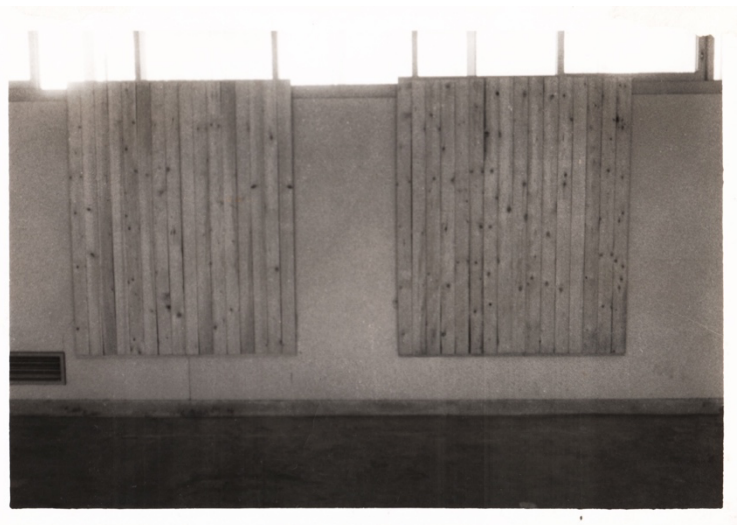


Hikosaka Naoyoshi, *Minimal Art*
1992, acrylic on wood
29 x 53.1 x 9.2 cm

ポイエーシス (制作) とプラークシスに始まり、毛沢東の実践論に根ざした実践と認識の連鎖へと偏していきます。その最終段階として、制作における実践と理論化を具現するのが、1977年から始まった、「プラクティス・バイ・ウッド・ペインティング」(Practice by Wood Painting; PWP と略) シリーズでした。

PWP、通称「ウッド・ペインティング」は、タイトルが明言するように、キャンバスの代わりに木を支持体とします。ただし、平坦な木のパネルではなく、厚みや長さや幅が異なる木で凹凸のある不均等な表面を構成し、アクリル絵具の皮膜で覆う作品です。それはかつて床にラテックスを撒くことで一旦は否定し、解体した絵画の可能性を、キャンバスという平面を用いることなく、絵画的ではない手法で追求するものでした。この作品シリーズによって彦坂は「フロアイベント」において拒絶し、一度は解体したメディアである絵画の可能性を、絵画的でないメディアを介して追求する「ポスト絵画の絵画」の実験へと踏み出していきました。

遡ること 1960 年代後半、当時多摩美術大学の学生だった彦坂は、国内外で急速に変化し、非物質化する現代美術の様相に衝撃を受け、1969 年 6 月、バリケードで封鎖された多摩美術大学のキャンパスで開催されたグループ展で、キャンバスの代わりに木枠に貼られた透明なビニールシートを用い木枠から壁が見えたり、木製のパネルをフレームに挿入し壁を隠した作品や、ビニールシートを床に落とし木枠のフレームを壁に残した作品を発表します。これらの絵画の解体とも言える最初期の作品は、自立した物体としての絵画の自明性に疑問を呈しました。続く「フロア・イベント」シリーズでは最も自明な平面である住居の床をラテックスの皮膜で覆います。そして、「ウッドペインティング」ではキャンバスはすでに無く、それに代わって登場した木の支持体上の絵具の皮膜へと派生し展開していきます。



Hikosaka Naoyoshi, *Untitled (wood wall)*, 1969

MISA SHIN GALLERY

3-9-11-1F, Minamiazabu, Minato-ku, Tokyo 106-0047 JAPAN

tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335

www.misashin.com info@misashin.com

彦坂は絵画を解体しますが、プラクティスのコンセプトの下に制作へ回帰し、絵画をポスト絵画として再構築するという挑戦的な展開をとげました。これは、1960年代に従来の芸術概念から離反しつつ、その後に絵画へと回帰した世界的な芸術動向と重なります。ただし、彦坂の「ウッドペインティング」は単なる「絵画」への回帰に甘んじるのではなく、あくまで「ポスト絵画」を引き受けた上で、美術の自明性を見つめていく視線を保持し、モダニズムの見えない構造や前提を浮き彫りにします。

本展では近年、作家のスタジオで新たに発見された、1980年代から1990年代の「ウッド・ペインティング」を12点を展示いたします。ミニマルなフォルムと色調、異なる形状の支持体の上に描かれた、透明絵具による多彩な表皮やフラクタルな形が特徴的な抽象画など、今まで公開されることのなかった彦坂の「ウッド・ペインティング」の、新鮮な魅力を放つ作品群を紹介いたします。

会期中の11月4日(土)には美術史家の富井玲子氏を招き、トークを行います。

皆様のご来廊お待ちしております。



Hikosaka Naoyoshi, *Pencil and Burner (The Real)*, 1992
Pencil and acrylic on burned wood, 59.5 x 63.5 x 8 cm

彦坂尚嘉 Hikosaka Naoyoshi

1946年、東京生まれ。美術表現の制度そのものを根元から問い直し70年代以降の日本のコンセプチュアル・アートを主導したアーティストの一人。1967年多摩美術大学油彩科に入学、1969年に堀浩哉らとともに「美術家共闘会議」を結成。1999年「Global Conceptualism: Points of Origin, 1950s-1980s」クイーンズ美術館（ニューヨーク）他アメリカ国内3カ所巡回、2001年「CENTURY CITY」テートモダン（ロンドン）、2007年「Art, Anti-Art, Non-Art: Experimentations in the Public Sphere in Postwar Japan, 1950-1970」Getty Center, Research Institute（ロサンジェルス）、2013年「あいちトリエンナーレ」愛知県立美術館、2015年「Re:play 1972/2015—『映像表現'72』」東京国立近代美術館など国内外の展覧会に参加。

MISA SHIN GALLERY

東京都港区南麻布3-9-11パインコーストハイツ1F

アクセス方法

地下鉄ご利用の場合：東京メトロ日比谷線 広尾駅より南部坂を經由し徒歩約12分

東京メトロ南北線・三田線 白金高輪駅より薬園坂を經由し徒歩約15分

バスをご利用の場合：都営バス[橋86番]系統「仙台坂上」下車徒歩約3分

ちいばす「仙台坂上」下車徒歩約3分 麻布西ルート（広尾駅～麻布十番駅前（一の橋）～六本木けやき坂～広尾駅）

MAP



お問い合わせ：info@misashin.com Tel: 03-6450-2334